わかば

発行所
社団法人
ワカバ会
東京都港区赤羽１番地
TEL（451）0227

会長御栄転

今野善胤先生は此度母校から、上野高等学校に御栄転になりました。

新会長御着任

西村三郎先生が玉川高等学校から御着任になりました。

丸山先生からのご寄付

丸山先生米寿祝賀式に際して「すべての事業は金がなくては永続も発展もむずかしい」という、先生のご趣旨から左の通りご寄付いただきました。

三田高校へ	**十万円**
ワカバ会へ	**十万円**
わかば保育園へ	**十万円**

いずれ先生のご心情をいかして、有意義に使用させていただきます

総会御案内

5月27日(日)に延期

例年4月29日のところ都合により
延期いたします
これをもって総会の御案内にかえます

時間　午後一時から
場所　母校講堂で

祝賀式のよろこび　丸山　たい

万物は芽吹き花咲く春にして夫の米寿に感無量なり
足跡は小さくあれどま心に支えられをり八十八の夫
またの日はあると思えず三田駒場トキワと結ぶ今日の祝宴
三校が結ぶ一つの輪の中にとけてあふるる感激の渦
感激の花束胸に夫とわれ一生の幸に言葉なくをり
世に移り明治は遠くさりゆけど師弟の愛につつまれてをり
数々の祝詞思い出唄おどりひとつひとつが胸にしみゆく
サイン帳祝電を前に思い深しひとりひとりにそそぐ目はぬれ
夫をたたえ熱涙呑みつ詩を吟ず友あり水戸ゆはるばるときて
三校の校歌にわれら送られて別れかねをり三田のまなびや
刻まれて消ゆる日もなし伊豆山ゆひとりひとりに深く感謝す

丸山丈作先生米寿祝賀式挙行

昭和三十七年三月二十八日午後一時、母校講堂で、初代会長丸山丈作先生の米寿祝賀式が挙行された。丸山先生には去る三月十五日めでたく米寿をむかえられたので、先生が十五年間教頭を務められた第三高女（現駒場高校）、昭和十六年から三十年まで教頭、校長、理事長としてつくされたトキワ松学園と当第六高女（現三田高校）の先生の息のかかった卒業生が一丸となって、ここに式典を催したのであった。四時間を越える時間を、晴天とはいえ桜もまだほころびぬ季節に、つやつやと御血色のよい先生は、講堂壇上の金屏風の前に奥様と出席なされ、数々の祝詞、思い出話し、卒業生の歌などに耳をかたむけられ、先生ご自身もまた、誠にお元気に長時間にわたって、お礼のことば、思い出の数々を話されたのであった。以下はその式次第と祝詞の概略である。

丸山丈作先生米寿祝賀式次第

第一部
一、開式
二、挨拶　発企人代表円谷司娜子
三、お祝いのことば
　都立三田高校校長　今野　善胤
　トキワ松学園校長　佐藤　允
四、来賓祝辞
　東京都知事　東　竜太郎氏
　東京都教育委員長　木下　一雄氏
　オリムピック東京大会組織委員会事務次長　松沢　一鶴氏
　府立第三旧職員　西脇　先生
五、記念品贈呈
　第三高女卒業生　有志
　第六高女ワカバ会有志
　同　水泳部
　トキワ松学園　有志
六、御挨拶　丸山丈作先生
七、花束贈呈　わかば保育園園児
　トキワ松学園園児

第二部
八、シャンソン
　第六高女卒　石井好子
　アルト独唱
　第三高女卒　四家文子
　日本舞踊
　トキワ松学園卒　花柳太寿丸外
九、思い出をかたる
　第六高女卒　大橋鎮子
　第三高女卒　氏家寿子
　第六高女旧職員　須田四郎
　トキワ松学園職員　笹尾菊枝
（御礼のことば　丸山慶太郎氏）
十、校歌合唱
　第三高女校歌　第三高女卒業生
　第六高女校歌　第六高女卒業生
　トキワ松学園校歌
　　トキワ松学園卒業生
十一、閉式
（司会　トキワ松学園教諭
　泉　文子）

御挨拶（円谷司娜子）から

本日は一世紀を教育に生きていらっしゃった先生のお祝いの日でございます。約五十年前の三月二十八日今日、先生は新潟から上京され私共の主任として教壇にたたれたのでした。以来五十年の教育は目に見える物質としてはかれない事でありますが、今日お祝いの式を催す皆の心が先生の御功労に対するあらわれであります。私共は血肉をわかった親子のように心の血肉にむすばれており、今日こうして親のところへおいわいに集まったようなものでございます。お山に静に奥様とおくらしの理想的な御生活で、今日のこの催しを楽しい思い出としてわれわれの目に見えぬ力を感じて下さって、長くおくらし下さいますよう、今日一日を楽しくくらしたいと思います。

今野校長のお話しから

今日の好天気も丸山先生のお祝いを祝っているように思えます。私は六代目の校長という縁で先生のお話しにふれかねて敬意を表しておりました。教育者としての先生の御事蹟は今日、この三田高校にのこっていて数々生徒に貢献しております。先生のつくられたプールもいよいよ補強工事は完成して来月上旬にプール開きを行ないます。中房、三津浜林海団、妙高のスキー、また精神的にはもろもろに感謝する、賢くなる、無駄をはぶく等の教えも三田高校に校風としていきております。弱輩の私はこの数々の丸山先生の御心情をいかしたいと思っております。お祝いの前座をつとめて祝福申しあげ、美しい本日の行事にあつく敬意を表する次第です。

丸山先生略年譜

明治8 3 15		新潟県東頸城横住村に生る
明治29	22歳	新潟師範卒　原尋常小学校訓導となる
明治30	23歳	東京高師入学
明治35	28歳	同校研究科卒、福井師範教論となる
明治36	29歳	香川師範学校教論、同校附属小学校主事
明治41	34歳	東京府立第三高女教頭となる
大正12	49歳	東京府立第六高女校長となる
昭和16	67歳	常松高女教頭となる　盤
昭和22	73歳	トキワ松学園高女校長、理事長となる
昭和30	80歳	同学園退職、熱海伊豆山に隠棲

佐藤先生のお話しから

本日は第三、第六、トキワ松学園合同で祝賀式が催されお祝い申しあげます。丸山先生は　トキワ松学園を　八十一才でひ　かれたのであるが、昭和二十六年　理事としておむかえして以来はじめてお目にかかり、はっきりした先生であること、実行力にとまれた方であることをかんじました。「忘れざる先生」として毎日新聞に出たほど有名なお方でありますが、おあいすればするほど、先生のえらさがわかります。このお祝いの会をもつという事は、先生のこのえらさが如実にわかることであります発起人の学校の一人としておいわい申しあげます。

東都知事の祝詞から

最初に都からのお祝いをのべさせていただきます、「先生は明治中期教育に身を投じられて以来、よくつとめられ、天才の教育家でありました。その教育法は子女をひきつけ長年感化を与えられ、父兄も心随しておりました、今日のお祝いはその人格のあらわれでありまことによろこばしいことであります。これはまた先生にとっても至高のおよろこびであろうと存じます（略述）」次に知事としてでなく、都立第六にお世話になった娘の父としてお祝い申しあげます。当時本郷から遠路娘をこの学校に通わせる決心をして受験させたのは、先生の教育方針の一つのあらわれであるプールがあったからであります。おかげで娘は今なお元気で、また泳ぎたがっておりますほどです。今年その補強工事ができ、長年つかえなかった温水プールが再開できるので、責任を果した感じがいたします。プールはこれからも多くの生徒を引く魅力の中心となるでありましょう。先生には今後とも悠々自適の生活を長くつづけていただきたいものであります。

丸山先生米寿祝賀式挙行について第三高女、トキワ松学園とともに第六高女時代に、先生の御薫陶をうけた方々に、記念品贈呈の為、拠金をおねがいいたしましたところ多数御協力いただきまして有難うございました。左の通り報告いたします。

記念品料総額（ワカバ会）	八四〇、五〇〇円 （一、六二四名分）
贈呈額（当日）	七〇〇、〇〇〇円
印刷・郵税その他	九八、九三五円

残額は後日先生におとどけ申しあげます。

丸山先生米寿祝賀式発起人

母校だより

運動会	時　五月二十日（日）	場所　芝公園グランド
文化祭	時　六月十六日（土）十七日（日）	場所　本校

みなさまおさそい合せの上おでかけくださいませ。

木下一雄氏祝辞から

私は第三の旧職員としてお祝いにでたのでありますが、こうして現知事と前任・現任の教育委員長とがそろって丸山先生をお祝い申しあげるのは感慨無量であります。丸山先生は第三の教頭時代から、最も勇敢な進歩主義者でありまして、それは先生の修行された時代が日本の文化的文学的背景から考えてみると、鹿鳴館時代、ローマン主義時代、自然主義発生時代であり、丸山先生がいかに新しいかの結論が出たように思われます。教育者は物質的には恵まれない現状でありますが、こうして丸山先生米寿のお祝いに三校の卒業生のお心がまとまってお祝い申しあげるということは、教育者でなければ味えないお喜びであろうと、先生のお心を想像しております。

松沢一鶴氏の祝辞から

昔私は一父兄としてわずかに先生にお目にかかって感化をうけたものの代表としてお祝い申しあげます。昭和四年の頃丸山先生が私の家に見えられ、プール建設の相談をされました。その時の先生の進歩的な考え、英断ぶりに私は一目ぼれしたのであります。その時の私の意見を心よくいれて下さりやがて現在の同窓会館建設と合同の室内プールが出来上ったのであります。これは今年補強工事ができたならば、来たるべきオリムピックの外国選手の女子練習所としても立派に役立つものであるし、皆の子供が現在も未来も充分に泳ぐことができ、丸山先生の徳をたたえるでしょう。プールにもまた先生の米寿の賀にあやからせたいものであります。

母校の先生方の移動

転任
今野善胤校長（上野高校へ）
堺俊子先生（上野学園へ）
退職
安井篤三先生（35、10、27逝去）
高田豊雄先生（社会）
新任
西村三郎校長（玉川高校から）
山本敏夫先生（漢）（小山台高校から）
伊藤　博先生（国）（江戸川高校から）
田崎哲郎先生（社）（独協学園から）

米寿祝賀式のご挨拶から

丸山文作

今日は、三田高校、駒場高校、トキワ松学園三校の方から、私が長生きして居ったということで、お祝いをしていただき有難うございます。その上、知事さん、木下さん、松沢さんにお忙しいところをお祝いに来ていただき、まことに光栄のいたりです。

皆様に御礼の言葉を申しあげるのに、ただ有難うというのでは通じないから、自分のことを申しあげてはお聞き苦しく恐縮だが、お話し申しあげて感謝を表したいと思います。

さて明治四十一年三月上京して府立第三の教頭になって以来、今日で五十四年たちました。

第三に十五年いて、今度出来る第六の校長になれといわれ、当時は校舎も何もなかったが、さいわい第三で教頭を長くし、偶然その三学期に小林校長さんがスペイン風邪で長く休まれ、いきおい校長代理をして、学年末、新学期の校長の見ならいもさせていただいたので、おひきうけしました。そして翌年九月二十八日まで第三に御厄介になり、生徒といっしょにここへ引っこして来たのです。

それよりさかのぼるが、私と小林先生がどうしてしりあったかというと、明治四十年の視学の視祭で新潟にこられ、香川師範につとめていた私が歓迎会をして始めておあいしたのです。羽年、教頭として出てこいということで二十六日に新潟をおいとまし上京したのです。それ以来私の身は小林校長先生にまかせたので、女子高等師範をはじめ、他校から来ないかというおさそいのあった時も、小林先生の意見をきいて、そちらにはゆかなかった。私はそれ以前明治三十五年福井師範の時、奏任待遇をもらい、恐らく年齢の割に早くもらった方でしょう。しかし十五年間第三で同じ教頭の椅子にいたのです。たいていは三、四年位で校長になるものであり、「君は出世がおくれた」と友達からいわれたし、小林先生は「わたしは遺暦まで校長をやめないが、今四十二歳君は三十四歳で、それから校長になるのでは長い年月がたつから、どこかへゆくか」といわれたが、以前学務部長の浜野さんという人から、「あまり他の県へゆくものじゃない」といわれておったし、私はのんびりしておるから、どこへもゆかず、皆、ことわって十五年間第三にいたのでした。ところが、第六ができて校長になってみると、第三で長いこと教頭をさせてもらったことが大変ためになったのです。

たとえば、学校地所について、大蔵省の営繕局にいって、局長さんの妹が第三に在学したので恐れることなく話しあい、簡易保険のあたりを無償でかりうけ、赤羽小学校の入口からこちら六百坪を売らないでくれと約束し、宇佐見知事のところへ出かけて申し入れたところ、始めはみとめられなかったが、「もしここをよそに買われて住宅が出来、洗濯物がぶらさがったりしてはこまる、私は校長なのだから、これをたのむのだ」といって相談が成立した、これが第三に長年ごやっかいになって、どんな人も恐れず話しが出来るようにしてもらったからです。

また、学校が貧乏でピアノがほしい、方々で聞いてまわって見るとスタインウェイがよいというが、とても高い。関税をひいてもらいに、大蔵省できいてみると大変免当で、横浜の税関庁の権限だというので、とにかく手紙をもらっていってたのむと「永久に陳列するのでなければ許可しない」といったが、とうとう許可された。また方々の人に帳面をもって寄付をたのみ歩いて、スタインウェイも買えたし、顕微鏡もオリンパスのを二十五台そろえることができた。これも皆第三に長くおったおかげであります。このほか、私は第六へ来てわりに仕事をしたといわれて居るが、みな第三につとめさせてもらったおかげなのです。プールをつくる考えをおこしたのは、海国日本のお母さんたちが、海を恐れない人でないといけないと思って、生徒を三津浜の林海団につれていったが、これは金がかかる。全員が泳げるためにはプールがほしい。しかし当時政府は消極的政策をとっているから、ぜいたくだといって許可をしない。ところが節約の時代ならなお学校にプールをつくって海にやる金を節約し、先生の指導で安心して泳がせたいという父兄の市会副議長が申し入れをしてくれ、区の学務課からの反対も、保護者会を通じて知事にあって頼み、とうとう許可され、オーソリティの松沢一鶴さんにあっていろいろ教えてもらいつくり上げたのです。在職二年目から三津浜へ、三年目から中房へ、四年目から妙高へゆくことになりました。このスキーは、保護者会は危険だといって補助をしないといったが、「スキー位たやすいものは無い、傾斜にくれば自然にすべる。すべての芸事は入りやすく達しがたいのがよいが、スキーはそれである」と信じていたので、補助をことわって出かけようとしたら、ちょうど大正天皇の御不例にあいとめられたが、思いたったことなのでたった十九人であったが出発し、崩御の日は午前中つつしんで宿に居り、午後からすべったが、誰からも止められもせず大丈夫でした。また皆に船になれさせなければいけないと思って、三等ではいやになるにきまっているから、欧州航路のお客が神戸でおりたあとのりこんで一等で横浜までかえってくる修学旅行を郵船会社の副社長が父兄だったので、たのんで計画し、横浜に上ったら、翌日の新聞で叩かれたが、それはこちらの心持ちを知らないのだからと私は平気でした。また教育は体育がもとであるので、体育の須田先生と相談して設備をととのえ、また理論が大切であるから、当時文部省では教科書はもたさない方針であったが、体育教科書をつくって教えたところ、当時の体育審議会の人が見学にきて、叱られず、反対に講習会をひらいて全国の校長が集まり、教科書をつかうようになったのです。私は誠心誠意生徒のためにやることなのであるから役人などは恐れない。こういう事をなしえたのも実に第三に長くいたおかげであります。

六十七歳で十八年つとめた第六をやめた時、トキワ松によばれて、顧問で来てくれといわれたが、私は第三に十五年も教頭をしたのだから監視するような顧問でなくほんとうに働きたいといいました。

役者は、殿様は出来るが乞食は出来ないというのは上手じゃない。校長は出来るが門衛は出来ないというのはよくないのです。こうしてつとめて、一時戦争で身をひいて故郷で百姓をし、このまま終るものと思っていたところ、また呼ばれてトキワ松で働かせてもらったのは大変有難いことです。われわれの友達はからだが丈夫で仕事がないために味けない思いをしておる者が多いのに、私はトキワ松のおかげで、八年間働かせてもらってまことに幸でした。

私はこの三校のおかげで今日の日があるので感謝したりないほどです。それを長生きしたといって、こうしてお祝して下さるのは、感謝にたえません。その上えらい方まで来て下さって光栄を与えて下さったり、記念品までいただき、誠に有難うございました。

謡について

一回D　藤崎美智

今度、謡に就いて書けと仰言られましたので心ならずもお受けはいたしましたが私は未熟で且つ能に関する知識がないためほんとに困りました。

さて、これを御覧になる方々には謡を御存じない方もあると存じましてその方々にもちょっと申上げるつもりでございます。

現代演能いたしておる能は、凡そ六百年前前に観阿彌とその世阿彌によって、従来ある申楽（元中元の散楽により脱皮したもの）を大成したものだそうです。その子孫は現に観世流と称して、能楽界で最も隆盛の流儀でございます。

その他宝生流、金春流、金剛流、喜多流と五流ございます。これ等流儀は能のシテ方（主役）で、舞、歌の二曲を専門としております。舞歌とは仕舞と謡のことで、これ等が世間に流布して多くの方々に観賞されています。能はこの他ワキ方、狂言方、囃子方、地方（数名で謡をうたう）という専門家によって一曲の能が舞台で演ぜられるのです。このワキ方、狂言方、囃子方にも流儀があって、現在残っているものは十数流あるそうでございます。なお舞台のことや装束のこと、作物のことも申上げたいのですが、長くなりますので省きます。

謡とは能の歌詞のことで一曲の土台をなすものなので、謡のお話となると自然能の概略を申し上げるようになります。言いかえますれば、謡をうたうことによりその曲の概要を味うことができます。例えば歌舞伎を彩色の絵といたしますと、能は墨絵のようなものとお考えになってよいと思います。今まで申上げたように長い長い伝統につちかわれた芸術ですので、これをたしなんでみますと、すればするほど奥行きが深く味のあるものです。

皆様がお稽古なさいます時は、お流儀は前に申上げた何流でも結構ですが、よい師匠、これは世間的にいって派手やかとか立派とかいう意味でなく、ほんとに芸一途に生き人間的に立派な方におつきになることを、老婆心ながら申添えて筆をおきます。

〔附　記〕

まだ日時は確定いたしませんが深井先生を中心にわかば会の謡会を催すつもりでおります。その折はふるって御参加下さいますように。

老人病

十回オ　佐々木成子

さしも猛威をふるった流感もどうやら下火になり、三月の声をきくと、もうどこか春めいてホッとする今日この頃でございます。ワカバ会にはいつも御無沙汰ばかりしておりますが、会報を通して、色々な分野で夫々に活躍していらっしゃる会員の方々の御様子を知りいつも嬉しく又心強く思っております。

一昨年から昨年にかけ十ケ月ばかり、私もドイツの演奏旅行をかねて曽遊の地ウイーンを再び訪れて参りました。ウイーンといえばもう皆様すぐ、あの音楽の都かと御承知の事と思じますが、日本でいへば京都に似たこの都会は、落ちついた静かな古い街です。

ちょっと休みたいと入ったレストランにはテレビやラジオが人の事もおかまいなしにがなり立て、通勤で乗った電車はこれ又サーヴィスと称して話しも出来ぬ程大きくレコードをかけつづけ、店を出た時、電車を降りた時には神経がクタクタに疲れ果ててしまう、というような東京の生活とは凡そかけはなれてのんびりしたウィーンの街に、私はすっかりとり憑れてしまったのです。

ある日、町角で市電を待っていた私は、たまたま同じように電車を待つ大勢の小学生、それも二、三年生と一緒になりました。先生も一緒に、どこかに見学に行くのでしょうか。

私はトタンに、日本で小学生の遠足と同じ電車に乗り合せた不愉快を思い、すっかり憂鬱になりました。電車が来たのですが子供達が大勢の為、私はどうしても一緒の箱に乗らざるを得なくなり、いそいで反対の口から中の方へ入りました。ところがどうでしょう。相当窮屈そうに乗っている姿はすぐ近くにありながら、どこに行ってしまったかと見直す程静かなのです。

おし合いもせず、大声で話すでもなく、各自が黙って窓の外を見ているだけです。私はもうすっかり感心して思わず人数を数えると三十人はいたでしょうか。そしてかりそめにも憂鬱になんてなった事がとんだ取越苦労である事を知りました。

小さい時からのこんな習慣こそ、何も社会科などと大げさに銘うつまでもなく、常識として、大きくなってからも人に迷惑をかけない社会を作れるのでしょう。これはほんの一例ですが、一千万もの大都会であれば尚更必要な事と、つくづく日本人の生活態度を思いました。禁煙の車内で悠々と煙草を喫んで恥じぬ人、白い境界線をまたがって走っている自動車、大荷物を持った女の人や年寄が来ても平然と腰かけている学生、よその人のとめたタクシーに平気で自分が乗り込む男の人、十五円のバスに乗るのに千円札しか持たずに来る人、一人分の切符を荷物や子供で三人分にも使う人、電車内を屑籠同然キャラメルの紙やみかんの皮でちらかす親子、子供達を、室内でも所きらわずかけづり廻らせて気づかぬ母親、等々一寸考えただけで何と沢山の苦情が出て来る事でしょう。こう苦情が多いというのは、流感はまぬがれた私もいよいよ老人病にはとりつかれてしまったようです。あまりこの病にかからないですむ国に行きたいと思うのは私ひとりでしょうか。では皆様もどうぞ呉々も御大切になさいませ。

音楽会の予告

佐々木さんは昨夏、ドイツ留学からかえられ、その成果を、本年十月初め頃発表される予定です。その折にはワカバ会でも御援助いたしたいと思いますので、皆様よろしく御協力下さいませ。

東大の学生生活から

五ノ三　山口幹子

本校を卒業して、東大理一に入学した私に、約八年の年月が流れた。今は理学部数学科の大学院で、研究者でまた学問研究の指導者となりたいと願いつつ、毎日を勉強に過している私であるが、ここまでに来る道は決して平坦なものではなかった。無駄な回り道をしたり、方向違いの道へ踏み込んだりの連続であった。なぜこんな無駄をしなければならなかったか、と考えてみると、高校時代の勉強の仕方に幾分問題があったように思う。即ち高校時代にこんな態度で勉強していたら、大学生活でこうもまごつくことはなかったろうと反省されることがいくつか頭に浮ぶのである。ここで、それらのことについて考えてみるのも私にとって必要なことだし、また他の方々にとっても参考になるかもしれないと思って、筆をとることにした。

大学での学生生活においては、まず何といっても、自主的な勉強が、その基本になければだめである。他人が何といおうとまた、とても勉強し切れない程の時間割が組まれていようと、自分のペースに合ったスケジュールを組み、自分で一歩一歩、手固くやっていくのでなければ、波間に浮かぶ木の葉のごとくになってしまう。でもそんなことをいっていたのではとても大学の卒業単位を取れない、まわりの友人たちと一緒に勉強していかれないということになるかもしれない。その時には自分の勉強の速度を上げる方法を考えるのである。ではどうするか？　その方法はいろいろある。先輩たちの取っている方法をまず注意してみるつとだ。そこには先人たちの優れた知恵が秘められ、累積されているものである。その二、三を上げてみよう。

私は、大学の寮で経済学部のある学生と知り合った。私は、彼がどんな学生生活を送っているかと聞いてみた。彼は、東大生活協同組合（注）の役員をしている、といっていた。

（注）東大生活協同組合
学内の職員、学生を組合員として持ち、運営委員は組合員の選挙による立候補制である。二つの学生大食堂、日常品の販売店、プレイガイド等を経営し、組合員に安く良い品を供給する便を計っている。

私は、自分の高校時代には、自治会の役員をする等ということは仕方なくやることで、そこに自分の勉強と直結した、積極的な意義なんか、みとめていなかったものである。ところがこのA君は、自分の勉強のために、というか、自分が一つの経済団体を運営していくという経験によって、自分が成長していくために、積極的に役員を引受けているらしいのである。実社会の経験によって、講義の理解も彼には一段と深いものとなるであろう。

また、私は、法学部の学生で、ボート部の主将をしているB君とも知り合った。彼は主将として後輩たちの指導をし、面倒をみていた。そのことによって、彼は人間が協同して働く際のさまざまな、有効な方法を体得し、優れた指導力を身につけていくに違いない。

文科系の人たちの勉強方法は、何といっても人間社会に体当り的である。

私の在籍している大学院の人たちの中にも、優れた方法を身につけている人が多い。大学院に入る人たちは、大たい、学者になり、人を指導する能力を身につけようとしているから、どのようにして専問的な実力をつけようかということに一番苦心している。まず彼らはよく勉強する。しかも人によく聞く、また聞かれれば、即座にはわからないことでも、一緒になって考えようとするのである。それればかりでなく、積極的に同輩、後輩の中から、自分と一緒に勉強する人を作り出す。そして精一杯勉強した結果、出来たところまでを、他人に聞いてもらう。そして自分の非を補う。ここにおいても自分を積極的に周囲にさらし、周囲の人々からたたかれて自分が一歩一歩確実なものになるのを望むのである。彼らは好んで輪講する。「輪講」ということを高校時代に経験しておけば、ずい分、役立ったと思われるのだが。輪講、即ち一冊の本を読むのに、三、四人で一組になり、週に二回位日をきめて一人ずつ受持ちの個所を講義するのである。聞く方は、自分がわかるまで質問する。聞かれる方は、全員がわかるまで説明する。質問されて自分が間違っていたことがわかることもある。とにかく皆の前で黒板を使って、人に教えるのであるから、いい加減な理解の仕方ではどうにもならない。そこで厳密な予習をしなければならず、その上もう一度黒板に書きつけるのであるから完全に理解できる上に、内容を実によくおぼえるのである。勉強の上でその効果は非常に大きい。

また、そのチームワークを保つためにも、多くの配慮が必要になる。体の調子が悪かったり、アルバイトで疲れていたりする時は、それと察して交代したり、勉強がうまくいかなくて意気消沈している時にははげましたり、とにかく共に勉強するうちに、メムバーの一人一人が最大の力を出していく方法をも習得していくのである。

まだ書き残したことは多い。だがこれらのことだけでも、私が高校時代に理解し、先生と生徒との関係だけでなく、もっと幅広い人間関係を作りつつ勉強していたらそれに続く大学生活もさらに豊かなものになったかもしれないと思う。本校在学中の方々にとって、一先輩のこんな反省が、全く無駄であればこんなうれしいことはない。

ご挨拶

催物係りから

昨年度は七月に宝塚歌劇観劇会、十月に卒業生による音楽会（東京文化会館）を催しましたが、多くの方のご協力を頂き、両方とも大成功をおさめましたこと（純益宝塚九万円余、音楽会十七万円余）を、心よりお礼申し上げます。

催物も回を重ねますたびに、皆様のご理解をいただき、昨今ではご催促をいただくこともございまして、係一同、感激致しております。しかし一方には、PR不足？その他でご存じなかったり、ご参加いただけない方がございます。何卒今後は皆様のレジャー計画の一つにお加えの上、是非ご協力下さいますよう、お願い申し上げます。

亡き人を偲ぶ

百田治朗先生　昭和三十七年三月三十日
安井憲三先生　昭和三十六年十月二十七日
幡谷和子先生　昭和三十七年一月二十七日
二C　由井（栢木）和子　昭和三十七年三月十日
五工　金子（片桐）信子　昭和三十七年一月二十四日
六ウ南部（田村）淑子昭和三十六年八月二十二日逝

百田先生を悼む

飯　進

三月二十日昼頃だったでしょうか、寺尾先生から、百田先生の御逝去を知らされましたが、いかにも先生らしく、きちんと臥せったまま他界していらっしゃるお姿を拝見するまでは、どうしても信じられませんでした。

奥様のお話しによりますと、「主人は三十一日で、停年のため、都教育研究部長の職を去ることになっておりましたが、三十日には残務整理も一応すみ、四月から東邦高校へつとめることもきまりまして、一安心したのでしょうか、いつもより御酒をすごし、夜半、手洗いに起きました時は、大分苦しそうでしたが、私の手助けをことわってそのまま一人で二階の寝所へ上っていきました。けれど、いつもすぐ消えるはずの電気が消えませんので、上ってみますときちんと床に眠ったまま、ハァハァと苦しそうに大きく肩で息をしておりましたので、驚いていそいで医者を呼び手をつくしましたが、もうどうしょうもありませんでした」ということです。亡くなられたのは三十日午前一時頃、病名は狭心症とのことです。先生は二月には還暦のお祝いをなさり、ますますお元気のことと思っておりましたので、ほんとうに夢のようです。

先生は東大卒業以来、三十余年の間、一身の栄達をのぞまず、一途に青少年教育のためにつくされました。先生はつねづね、「人間らしい人間になれ」とおっしゃり、英国風の紳士教育を目標とされたように拝察致しております。私は一八中（現小山台高校）時代、先生から英語を教わりましたが、多くの思い出の中でとくに印象に残っていることが二つあります。一つは、昼休みは必ずといってよいくらい生徒とともにテニスに興じられ、五時間目には、ふいてもふいてもあふれでる汗に苦笑しながら授業を続けられたこと、一つは、「お互いに紳士としてつきあおう」とおっしゃって、どんなことでも一対一の人間同志として、親身になって相談にのってくださり決して生徒を呼び捨てなさらなかったことです。

先生に亡くなられたことはほんとうに残念ですが、せめて先生のお教えを、できるだけ今後の生活にいかすように努力することをお誓いするとともに、先生の御冥福をお祈り致す次第です。

（三田高校国語科教諭）

御略暦

大正15・3　帝大英文科卒
　府立八中教諭
18・12　竹田宮付宮内事務官
22・3　都立女子専門学校教授
24・6　都立第六高女校長
30・10　都立教育研究所研究部長
37・3・30　逝去

安井先生の御逝去について

涌井ウメ

安井先生の御逝去は、それから丁度五ケ月の今もなお信じられない位、私にとっては思いがけない出来事であった。人の世には、かかる驚天動地の驚きがあるものであろうか。昨年十月二十七日の夜、たしか八時半頃、高城先生から、安井先生が今亡くなられたという電話で、私はわが耳を疑うばかりだった。その夜、安井先生の奥様から高城先生に電話があり、奥様は中廊下を隔てて先生のやすんでおられるのを見ながら電話をかけておられたとのこと、そのあと大船のお里へ電話をなさり、ふと気がつくと先生のやすんでおられる姿が不自然なようで枕許にゆかれると、もう先生の呼吸はなかったそうである。そんなことを高城先生の電話で知らされ、私は九時頃鎌倉のお宅に電話した。奥様のお話では最近不眠症になやまされ、睡眠薬を主治医から調剤してもらい、その夜ものんでやすまれたばかりであったそうですぐ主治医がかけつけ人工呼吸もしたが駄目だったとの事で、それは睡眠薬で意識が薄れている所へ咳こみ痰が喉にからまったのを吐き出す力がなく、亡くなられたそうである。私共国語科の者が先生に最後にお目にかかったのは十月十四日であった。この事は前もって奥様に申し上げた所、二十三日具合がわるいので見舞を延期してほしいとのことであったが、お玄関先まででのつもりで当日午後三時頃うかがうと、今日は気分がよいからと先生はセルの単衣に兵児帯姿で出てこられ、無理に応接間に通された。気兼する私共に大丈夫だからと始終ニコニコして、たわいのない話をきき、椅子にかけておられた。それではじめ遠慮していた私共もつい図にのり大声で話したり笑ったりして、とうとうおいしいお寿司を御馳走になり暗くなってからおいとましたのであった。その折私だけ奥様から医師の診断として先生のおからだは今年一杯位しかもたないと申され暗澹たる心になりながら、御本人は御存知ないことなので平気をよそおっている事がつらくてならなかったが、一方では診断はどうあろうとお元気でもあり苦痛もない事とてまだまだ大丈夫だと身贔負に信じょうとしていた。所がそれから二三日して容態は次第に悪くなり不眠、食慾不振、咳こみなどの症状があらわれ、奥様もいよいよ看病にぬかりのないように手伝の人等もおたのみになった。そして先生御自身から輸血してみようとのことで第一の輸血は亡くなられる二日前であった。丁度高城先生が見舞に行かれ、お会いにならずに帰られ中一日おいて二十七日に二回目の輸血後睡眠薬をのみ、やすまれたまま目ざめられなかったのであった。やがてはという危惧をいだき病状にただならぬものを感じながらこんなに早くあわただしく永眠なさろうとは本当に思いもかけぬ事であった。先生は御自身の健康については細心の注意をなさる方で、二三年前から広尾病院のドックに入られたり、癌研の診察をうけたりしておられたが、昨年四月頃顔色が非常に悪く窶れられたので、私が気にして診察をおすすめし、御自分もその気になり横浜国立病院に精密検査のため入院されたのが六月初めであった。病院でもなかなか病源がつきとめられず白血病の疑もあった。検査が大変で見舞にうかがったら骨の中の水をとるために肋骨にドリルで穴をあけたと胸の傷をみせられたこともあった。その後六月下旬に東大病院に移りなお検査が続行され、そのため体力も消耗された。それでも七月頃はお元気で体重が増したとか、検査のため折角増した体重が減ったので、とりかえさなければとか話されていた。健康になりたい一心で、どんなつらい検査もうけられ、最後の腎臓の検査は半日もかかり、あまりの苦痛に気絶したほどだといっておられた。

さてかねて、先生は家を新築する計画で二三年前からいろいろ研究し、お気に入りの鎌倉に理想的な地所を求められた。そこは所謂谷で東と北に樹木の鬱蒼とした山がかこみ、南は、はるか海に向って夏涼しく冬暖かい所である。設計も一年がかりでいよいよ建築にとりかかったのが昨年の初、四月には、建前だといっておられた。所が急な入院さわぎで建築の方はすべて奥様お一人の手によりすすめられ七月中旬に落成移転されたのであった。一方先生の御症状につき、あとでうかがうと奥様には不治の病気の事は告げられてあり、奥様としては一時悲嘆の極に沈まれたが、又覚悟もされ何としてでもあれほど楽しみにしておられた新しいお宅で静養させたいと思われたそうである。そして八月十日に退院、御新居で静養される事になった。気分の転換もあってその後体重も増し元気になられた。時折伺がうと楽しそうに家の中を案内され、庭はこうして山にこんな設備をして等いろいろ夢を語られ九月十日にはわざわざ電話で、退院して丁度一ケ月その間に体重がどれだけ増して食慾もついた等いっておられたのに、病魔は体を次第に蝕んでいて、ついに十月二十七日の御最後となったのである。先生のお病気は一流の病院でもなかなか診断がつかず、病名も一転二転したのであったが結局腎臓に病根がありそれが血液にまじって遂に肺臓も侵かして気管炎や喘息のような症状を呈するようになったのだと思う。先生のご家庭はまことにお立派で、聡明で美しい奥様と秀才の誉高い東大工学部三年と中学二年のお二人の令息が先生亡き後もお寂しい中にけなげに生きぬいていらっしゃるのである。私としては、二十五年間も同じ仕事をしてきた先生を失った悲しみと残念さは筆舌につくされず、言いようのない寂寥を感ずるのである。

幡谷先生

二十二工　渡辺　黎子

一月二十七日の夕方、電話のベルが鳴り、何気なく受話器を手にした私の耳に、幡谷先生御逝去のお知らせ……思わず、膝が、がくがくとふるえてしまいました。

去年の九月、級の皆さんを代表して、三人でお見舞に上りました時、「声を聞いたら逢いたくなったわ」と仰云って、お玄関まで、出ていらした先生。とてもおやせになって、うす暗くもあったし、はじめは、先生だとは思えない程でしたが、きれいな黒い目と、お声は、ちっともお変りなく、とても明るいお話ぶりでしたので、一日も早くお元気になられて、級会にも、是非出席して頂きたいとお話して、お別れしたのでした。

別れは人の世の常とは申しましても、まだ成長期にいらっしゃるお子様を残して、逝かれました先生の御気持を思いますと、本当に切々たる思いで胸が一杯でございます。どうか、お子様がすくすくと御成長なさいますように祈らずにはいられません。先生の御霊も、きっと、見守っていらっしゃる事でしょう。

御略暦

昭和16・3　女子高等師範学校卒
16・3　府立第六教諭
25・3　三田高校退職
　御家族で渡米
34・9　帰国
35・4　女子学院講師
37・1・27　逝去

由井和子様を偲んで

二C　田口　道子

春も間近にせまった朝のこと、夢うつつの私は突然由井様の御訃報に愕然とさせられ、一時は思考力さえ失ったような気がいたしました。

それより一週間前のお節句の宵、偶然西宮の御宅に御電話しましたところ、御病気御治療の為、今朝飛行機にて御上京とのこと、つづいて日活アパートに御電話した私は、御主人様お自らの御言葉で容易ならぬ御病状と知り大いに驚き翌日四日早速順天堂病院に御見舞申上げた時には、こんなに急激にと思われる程の御衰弱ぶりで、手術に備える為のリンゲル輸血等に全力をそそいでいらっしゃる最中それでも御声は例の如くしゃんとしていろいろお話をなさり、手術に希望をいだいていらっしゃる御様子、そして「誰方にも、わないでね」と今となってはそれが最後の御声でした。「手術がおすみになって御元気になられたら、皆さま御連れして御見舞に伺いましょう」といってお別れしました。内臓外科随一といわれる福田先生を御親戚に持たれる由井様が、先生の執刀も御待ちにならないで忽然と御他界なされようとは、何故もっと早く先生の御診察をお受けにならなかったのでしょうか、「首に縄をつけても連れて行くべきでした」と御主人様の御嘆きの御言葉も悲しく口惜しいかぎりでございます。

私の存じ上げて居るかぎり、御病気らしい御病気もなさらず、いつも病身に打ちくだかれようとしている私をはげましなぐさめて下さった由井様でした。「田口さんの死に顔は私が御化粧してあげる」とおっしゃったこともございました。昨年暮近く御上京の折り、胃がもたれて食欲がないとおっしゃりながらも、東中野の御新築にうつられてからの楽しい御生活に思いを馳せ、いつもの事ながら時のたつのを忘れる私達でした。

満つれば欠くると申しますけれどまったく満ちたりた御仕合せな御生涯でしただけに、まだまだなさりたいことが山ほどおありになったはず。ほんとうに無念やる方なききわみでございます。霊安室に馳せつけ御通夜、御葬儀に参列いたし、そして東京駅に御遺骨を御送りした今でも、あまりに駆け足の気早な御旅立故にピンとこない私です。由井さんの追悼文をとの幹事の方の御依頼もうらめしく、一度は御辞退いたしましたけれど……。

つきぬ思い出をなつかしみ御生前の御厚意を謝しつつ遥かに冥福を御祈り申し上げます。

金子　信子様

五回工　萩原　通子

「大した事無いのだけど腎臓が悪いので食事療法をしなくてはいけないので入院したの」といつもと変らぬ明い笑顔でお話なさる信子さんに、入院したと言うお電話で驚いて飛んで来た私はホッとしました。私の事は大丈夫だからと、かえって去年の暮に萩原に死なれたばかりの私の事をあれこれ心配して下さる信子さんでした。「ではまたね」と軽い気持でお別れしてきたのに、なくなられたという電話を頂いた時の驚きただ茫然とするばかりでした。御主人のお勤めの関係で信子さんは御主人と共に東京に、お子さん方は吹田という生活を一昨年からなさって、何かにつけ東京と吹田の間を往復していらっしゃいました。私は健康に自信があると言う気持があんまり働きすぎて無理を蓄積させてしまってのではないかと残念でなりません。第六時代からの二〇何年かの長いおつき合いの間に、よい御結婚を遊ばされて優秀なお子様にかこまれて御幸福でいらっしゃった信子様に、不幸続きの私はいつも力強けられて居りました。これからも何かにつけてお力になって頂きたいと考えていた矢先に、信子さんまでうばわれてしまうなんでお家族の方々のお気持にまけない程の悲しみをうけております。信子さんが一番気にかけていらっしゃったお嬢さんも卒業式をおえられて、これからはおやさしいお父様を御中心に、信子様と一緒にいらっしゃるように三人揃ってご健康にお過しになる事と思いますのでどうぞ御安心下さい。

南部淑子様に捧ぐ

六回ウ　篠沢兜喜子

淑子様

「田村さん」、「えッ？」ニコニコしながらどこからか出ていらっしゃるのじゃないか知ら……。そんな気持ちを今でも尚持ちつづけております。想えば刈上げ頭に制服を身に付けて本当に可愛かった一年の時から三十有余年共に楽しみを分ち、悲しみや苦しみのはけ口のお友達でしたのネ。長い間には貴女だっていやな事、くやしい事もあったでしょうに私は貴女のいやな顔や意地の悪さに一度だって接した事があったでしょうか？　いつもおだやかな善意にみちた方でしたネ。枕をつけた事のない貴女が子宮癌という恐しい病を持って居らしたって想像も出来ません。御主人に見守られてお母様や三人のお子様の事もどんなにか心残りでしたでしょうに、安らかな笑いを浮べて天に召されました。何とかして生命を取り止めようとの御家族の必死の願いもよそに……。お忙しい中をよく最後まで看病してお上げになった御主人に私も感謝の念で一杯です。貴女だってどんなに感謝していらっしゃるでしょう。楽しい第六のころ笑い出したら止らなくてお作法の時間に深井先生にニラまれましたっけ、よく勉強も教えて下さったのネ。宝塚に夢中になって同じ舞台を何回も見ては主題歌から伴奏まで覚えてよく唄いましたネ。私の頭は走馬燈のようにつきる事のない想い出が浮びます。よいお友達を持って私の唯一のほこりでしたけれど、今何も申上げる言葉を知りません。悲しみと途方にくれて野辺の送りをなさった。御主人お母様三人のお子様方にお幸せな日が一日も早く来ていつまでもつづきますように遠くから見守って上げて下さいませね。

母校三十六年度進学、就職、状況

進学

一橋大三　お茶水女子大七　教育大四　東京大二　芸大一　東京外国語大四　学芸大七　千葉大二　埼玉大一　横浜国大五　都立大三　横浜市立大一　早大二十九　慶大十七　東京女子大十四　津田塾大八　日本女子大十六　青山学院大二十　立教大十五　社会事業大一　関東学院大一　明治学院大一　東京農大一　芝浦工大一　武蔵野美術短期大二　東洋英和短大一　大阪外語大一　大谷女子大一　武蔵大学一　国学院大一　恵泉短大一　衆議院速記養成一　清泉女子短大一　杉野学園短大一　中央大十　日本大五　東京理科大六　学習院大十　国際キリスト教大一　明治大五　上智大九　法政大五　聖心女子大二　東京薬科大二　星薬科大一　武蔵工業大二　成城大一　武蔵野音楽大別科一　多摩美術大二　共立女子大三　津田スクールオブビズネス十三　成蹊大四　国立音楽大一　女子美術大一

就職

興業銀行三　第一銀行六　住友銀行一　富士銀行二　開発銀行一　輸出入銀行二　同栄信用金庫一　明治生命一　安田生命一　第一生命一　千代田生命一　安田海上火災一　三井物産八　ゼネラル物産一　日興証券一　山一証券二　野村証券一　三菱商事四　三井金属　三菱金属一　東京ガス一　日本硝子一　旭硝子一　東京トヨペット一　新三菱重工業一　日本鋼管一　富士製鉄二　八幡製鉄一　川崎製鉄二　神戸製鉄一　久保田鉄工一　二宮製作所一　浦賀船渠一　日本セメント二　東洋レーヨン四　帝国人絹一　旭化成一　日本ガス化学一　日本石油一　三菱石油一　三菱油化一　イカリ工業一　スタンダード・バキューム石油二　日本航空一　日本航空整備一　全日本空輸一　三菱海運一　飯野海運一　飯野産業一　丸紅飯田二　味の素一　キリンビール三　伊藤工房一　キャノンカメラ一　シチズン時計一　損害保険料率算定会一　特許庁一

母校修学旅行

去る三月二十一日、二年生全員日の出号で関西へ修学旅行、二十五日、全員無事帰京した。本年度の修学旅行も、来春、関西方面の予定である。

原稿募集

次回〆切　九月十五日
字数　一、〇〇〇字程度
研究発表などは字数がふえても可

若い卒業生のお手紙に答えて

二回 D　中沢　千子

私が昨年わかばに書かせて頂いた「老後のことども」に対して一卒業生の方からお手紙を頂き回答をとのことでしたので、また図々しく一文を寄せます次第です。

Aさん（かりにこう呼ばせて頂きます）国家試験のおいそがしい中をお手紙下さってありがとうございました。うれしい結果であったかしらと案じながら一年前に書いたあの愚文を汗顔の至りで思い出しながらお返事をしたためます。

あなたが書いて下さった二つのポイントについて考えてみる前に、実は私はいわゆる「家つき娘」であったので、生まれたままの姓をそのまま、名簿に◎をつけられている身であることを申上げておきます。

あなたの第一のポイントは嫁と姑の間はどんなにしてもうまく行くものではないということ。これは世間の今までの常識で、だからこそ私もこの前あのように書く気になったのですが、常識だけに誰もが振りまわされるのは愚だと思うのです。私達は型破りでも何でもよいから、少しでも賢い方法を見付けるよう努力したいと願うのです。

ところで願うところまでは誰でも願ったり、それ相当の覚悟をしたりなのですが、さてどうすることが一番好いかということになるとこれはいろいろでしょうね。私自身未だ実際問題として直面したわけではないので、本来はこの問題を語るのはおこがましいわけなのですが、私が現在こうありたいと願っているのは前回書いたようなことです。つまり善意の他人ということにお互いに徹してそこから出発したいということ、嫁婿はもち論、娘も息子も最も近い、最も信頼できる他人として、お互いによくブレーキをかけ、時間をかけてよい関係を築いて行くこと、むづかしいけれどお互いに生活に何かシャンとした筋を通していれば、出来ないことではないと思います。その方便として私はできるだけ若い人とは別居した方がよいと思っていますが、一緒に暮してもうまく行く自信のある人は一緒に暮してもよいでしょう。但し同居の場合お母さんたるもの断固として孫のお守りを断るくらいの気構えがほしいと思います。孫のお守りとは端的に例をあげただけでつまりお母さんは自分の生活に筋を通したいということ、趣味でも仕事でもこれが「私のものよ」と言えるものを押し通すことですね。頑固なくらい自分のペースは守っても好いのではないでしょうか。

Aさん、ここまで書いてきて、これであなたへのお返事になっているかしらとちょっと不安になりましたが、私の言いたいことは嫁と姑の関係は議論の他だということつまりうまくやろうとか、うまく行くとかいうことよりも、先ず突放して新しい人間関係から新しい親子関係をつくり上げて行く時代ではないでしょうか、そのためには親は子に対する考えを大幅に改めねばいけない時がきていると思います。嫁といっても、姑といってももはや上下の関係というよりは、横の関係でありたいものです。そして嫁姑といういやな響を持った言葉を私達の間から追放してしまいましょう。貴方は御長男だそうですが、あまりこの問題を神経質にお考えにならないように。親に対する責任はお手紙の中に示されておりましたし、問題はむしろあなたのお母様がどう考えていらっしゃるかにあるように思います。

さて第二のポイント、息子はすべて外へ出るべしという御意見ですが、今の日本の貧しい社会保障では、子供が親の老後をみるのは当然仕方がないことで、そのために嫁姑のいやな関係も生じる。そこでそれをさけるために男は養子に行き母系家族を維持して行くということでしたね。たしかにそれで皆のいやがる嫁姑の間柄は消滅しますが、果してそれだけで家族の人間関係はうまく行くでしょうか。私自身養子娘でしたから、これには懐疑的です。やはり何回もの有形無形のピンチを切りぬけて皆が努力して行かねばならない点では同じだと思います。それに養子という形は家に重点をおいた結婚のためで、どこまでも個人の意志を尊重した結びつきであるべき現代にあっては、その形式にあまりこだわる必要はないのではありませんか。各人の状態に応じて一番むりのない形をとればいいのではないかと思うのです。

さてここで嫁姑の問題と大きな関係を持っているというよりは、一枚の紙の裏表のような関係にある老人の問題が私共には重大関心事です。老夫婦が夫婦でそろっている間はお互いの努力で解決の道はありますが、一人になった場合、これは老人ホームに入るか同居するか二つに一つ。ここで当然社会保障の問題になってくるわけですが、今のようなお寒い制度では私達はとても安心してそれに頼るわけにまいりません。ですから私達古い卒業生はお互いの力で何とか私達の憩いの地を作りたいとかねがね思っているわけです。とにかく私達姑の立場になる予定の者は何とかして、いついかなる場合でも、新しい、スカッとした家族の人間関係を作りたいと一生懸命努力しているつもりですが、ただ最後の「ねぐら」だけは平和で温い我が家でありたいと願うのは、人間としてむりないことでしょう。

世界一社会保障の行きとどいているスウエーデンで老人の自殺が仲々多いとか聞いたことがありますが解る気が致します。誰もが必らず行きつかねばならない人生の終着駅。そこがさくばくとした灰色の冷い処であったとしたら、どんな行き届いた設備も老人の寂しい心を慰めてはくれないにちがいありません。平凡で誰もが解っていることですがやはりお互いの努力と愛情が社会保障の制度をも生かすものだと思います。

Aさん、長々と下手な文章を書きましたが、こんなものでもお返事になりましたでしょうか。

若し幸いこれをお読み下さった会員の中で次の「わかば」に何か御意見を寄せて下さる方があれば、あなたも喜んで下さると思います。エプリールシャワーのはれた空に、桜が一杯枝をひろげて花をつけております。花の命の短いのを徒らに嘆かず、私共はお互いの努力と愛情を培って、太い幹と生いしげる緑の葉を待ちましょう。

ではごきげんよう。

支部だより

札幌
仙台
浦和
市川
横浜
静岡
名古屋
京都
関西
福岡
大分

連絡先

札幌	五エ	臼居　和子	札幌市南二条西十四丁目高裁官舎
仙台	一E	海鉾　歌子	仙台市北五番町一一七
浦和	一C	宮田　りき	浦和市仲町五ノ十四
市川	十一オ	豊住　美枝	市川市中山町一ノ五三七
静岡	一A	谷口百合子	静岡市東草深町三ノ一
名古屋	六ウ	大谷万亀子	名古屋市熱田区旗屋町一八九
関西	一D	佐々木文子	神戸市東灘区本山町岡本字長子32
京都	五オ	石川　京子	京都市上京区京都御苑内
福岡	二E	富田やす子	福岡市梅光園住宅一七三一
大分	二B	有木　綾子	大分県鶴崎市三佐二一二三〇

仙台

秋の仙台ワカバ会は、十一月八日グランドホテルグリルで十八名集まりました。一度会ったが最後十年の知己の如くなってしまう第六精神で、大先輩の海鉾・大和両オバチャマを始め、われわれ年増スズメ、花の如き二十代の若奥様も年代の差なく和気溢々、能ある鷹は何とやらで、教育熱心をふり回す賢母も、地方新聞を賑すお色気マダムも見当らず、女学生気分そのままの実に気のおけない楽しい同窓会です。デザートを終えるとコの字型のテーブルを寄せてお饒舌を始め、定刻を過ぎること二時間で散会しました。次回は福島・山形の方々も参加される由。年々盛会になりそうです。

四十分もバスにゆられれば温泉あり海水浴場、スキー場、何でもござれ懐しい東京にも四、五時間で行かれるみちのくの都にしては、会員数が少いのが恨み。どうぞ、若いワカバ会の方々、仙台へどしどしおいで下さい。

（十一イ大久保十一オ藤原）

名古屋

名古屋ワカバ会は十三回駒嶺様、岡田様、十六回井上様、堀様、井内様のお力により昭和三十四年五月はじめて開かれました。それまで十年余り名古屋に住みながら、ただ一度氷上先生のご来訪の折開かれました、一部の方々の会に出席させていただきました以外には一人として同窓生にお目にかかったこともなく淋しく思っておりましたので、大よろこびで出席、それ以来、毎年春と秋に会を開いて何時も二〇名内外のご出席を得てたのしい時をすごしております。現在愛知、岐阜、三重の三県下にご在住の方で約六〇名がわかっております。どうぞ当地方へお転居の方はご連絡下さいませ。仕事をもっておりますので、なかなか忠うようなことは出来ませんが、遠く故郷を、母校を離れた所におりましても、また年は違いましてもワカバ会の中に結ばれ、共通の思い出を語り合い、お互いに何等かの意味で助け合っていきたいと思います。

最近の会（去年の十一月）の写真を一枚お送り致します。

六ウ　大矢万亀子

関西

関西わかば会も大変大きく育って参りまして唯今親しく通信致しております会員は百三十名程にも成りました。例年の通り去る一月二十七日に新年会を阪神のれん食堂の会場で催しましたところ五十二名も集りまして、第六の伝統ある気風につつまれました楽しい会でございました。皆様の御心が盛上って参りまして喜んでおりましたところに、悲しい御報告を致さねばならないことになりました。

去る一月二十四日五回エ組の金子信子様（片桐）。三月十日には二回C組の田井和子様（栢木）が続いて御逝去されてしまいました。御二方様共御達者でいらっしゃいましたのに篤の間の倒れておしまいになりました。御二人共になつかしい東京へたまたまいらっしゃいましてそのままになり、御見舞もできませんでしたことが残念でなりませんでした。呆然としております私共には、今は悲しい思出ばかりが浮んできてなりません。亡き御二方様の御冥福をお祈り致しますばかりでございます。

緑の頃にでもなりましたら皆様方と京都栂の尾の高山寺にでも遠足致したいと考えております。

一D　佐々木文子

京都

当京都支部も皆様お変りもなく会を持ちます度に十数名づつお集り下さり誠に、家庭的な楽しい雰囲気をもって居ります。

三十六年度には春には関西支部よりおさそいいただいて「あしびより低き門なり浄るり寺」の句にもある静かな山寺への行楽に数名が参加させていただき、秋には芝蘭会館にて支部の会をいたしました。九ア野島様十一エ大川様十七オ村山様の新顔も御出席下さり楽しい一夕でございました。

京都の一同は母校の修学旅行をとても楽しみにお待ちして居ります。

いつもぜひ御知らせ下さいませ

七ウ　樋爪智惠子

十一ウ今井　敬子

片瀬幼児園にて

高校七回卒　松田　洋子

春まだ浅い二月末、湘南の海岸に近い、都立の片瀬児童学園を訪れました。

そこは百五十名ばかりの二歳から五歳までの幼児を預かる施設で、ある者は母親が病気の為に、又ある者は両親が居ない為に、又ある者は両親がいても世話をすることができない為に、預けられている、いわば、肉親の愛に恵まれない子ども達の集まっている所です。多勢の若い保母さんがいて、子ども向きの生活ができるように工夫され、施設の中で、一種の幼稚園のような形態のとれる部屋が作られ、各部屋からそこへ通うようなシステムになっていても、どうしても生活は単調になり易いのがこの種の施設では已むを得ないことでしょう。我々は仕事の為に訪れ、該当する子どもの一人ずつに会ってテストをしました。

一人ずつは大変人なつこく、お行儀の良い子どもばかりで、声も出ないほど緊張していました。それを終り、施設全体を見学している間、お客様は嬉しいのでしょう、次々と子どもが集まって、案内してくださる園長先生が、道を一生懸命あけて下さいました。ところが、集まる子ども達は、みんな園長先生と同行の男の方にばかりとびついて、女の二人にはあまり関心をはらってくれないことに気がつきました。女の人はいつでも側にいるからなのでしょうが男の人にすっかり人気をさらわれた形で「来年からは男の人に来て頂きましょう」と話し合いました

普通の家庭では、父親がいなくとも、それほど子どもから「お父さんがいない」とさわがれないので、母親の存在の方が大きな位置をしめてしまいます。そして、直接の接触は母親にまかされ、それで事が足りているかのようにみえますが、子どもにしてみればお父さんがいるというだけで、どんなにか違うものであるかを膚で感じているのではないでしょうか。

父親は母親の精神的支柱として子どもに影響するというだけでなく、やはり子どもとの直接的な接触も必要だということでしょう。

それがどんな形で結果するかは分りませんが、円満な人格を醸成する為に、大きな要素をしめるものだろうと思いました。

（東京都中央児童相談所勤務）

わかば会
旅行会の報告

時日　昭和卅六年六月十、十一日
場所　榛名湖　赤城山
人数　四十一名（貸切バス一台）
費用　金二千百円也（写真共）
宿泊先　群馬県榛名町　無量院
（15イ中沢みつ様宅）

朝の中の雨も途中から晴れて、正午ごろ無量院に着く。お心づくしの手打ちうどんや山菜料理のお昼を頂き、榛名湖に向う。ロープウエイで榛名富士に登る。翌朝快晴予定を変更して赤城山に向う。新緑の山は折からつつじの花盛り。白樺の林の中に一面に朱い花が咲きみだれ、予期しない美しさに一同大よろこびだった。無事に夕方六時ごろ新宿着、解散した。無事第一回目はまあまあというところ秋に第二回目をと約束する。

時日　昭和卅六年六月廿八、廿九日
場所　裏磐梯方面
人数　七十七人（急行及び準急
現地は貸切バス二台）
費用　金三千六百円也（写真共）
宿泊先　福島県岳温泉　東館
（13ア鈴木洋子様宅）

前日の雨もすっかり晴れて例の通り第六日和。上野駅より一車両貸切りで急行アヅマに乗り、本宮駅着。貸切バス二台に分乗。二本松市、霞ケ城を見物。夕方、岳温泉に着く。東館では一般のお客を断って全館貸切りの上、お夕食の時にビールやジュースをご馳走して下さる。大広間で楽しいお食事ののち、各部屋にくつろぐもの、他の部屋を訪ねるもの、温泉に入るものなど思い思いに夜を過ごす。

翌早朝バスで出発、猪苗代湖、五色沼を経て桧原湖でおべんとうにする。一緒にいらした東館の鈴木様より名物の「なめこ汁」を一同にご馳走して頂き、お心づくしの松茸ご飯のおべんとうと共においしく頂く。

有名なスカイラインを通る。美しい秋晴れに恵まれて、めったにこんなに良いお天気にめぐり合わないというすばらしい眺めに、一同大よろこび。（曇りだと全く眺望がきかないそうで、ここばかりは唯々お天気がたよりなのだ）

予定コースを無事に終り、福島駅より準急アブクマに乗り、午後九時半無事上野着解散した。

第三回目は六月二十六日、二十七日の予定。場所は那須方面、那須温泉ホテルおだん荘に宿泊。

（10ア首藤様のご紹介による）

往復貸切バスで人数に制限があります。

春秋二回旅行会を開催いたしたいと存じます。良い場所、宿泊所などお知らせ下さい。またこの次に行きたい所なども御聞かせ下さい。

今までは幸いに、わかば会の皆様のご厚意に甘えてよい旅行をたのしんでおります。＝旅行会幹事

名簿の発行

七月中に発行
一部三〇〇円

昨年発行の予定でございましたのに都合により大変おくれましたことを深くおわび申します。

御送金の方法

振替東京八一一七〇番をご利用下さい。

卒業回数、クラス名お忘れなくご記入下さい。

ロウケチ染のおさそい

このたび「ワカバ会」で「ロウケチ染」のお稽古を始めることにいたしました。木綿、麻類には特に「ドイツナフトール染料」を使用いたしますので、絶体に普通の木綿洗濯の要領で色が落ちることのない染色法を使用いたします。

皆さま、お誘い合せのうえ入会していただけば、幸甚に存じます。

日時　五月より毎週木曜日
午後一時～五時まで
入会金　三百円
月謝　七百円

昭和37年度

ワカバ会費（一〇〇円）

（34・35・36年度未納の方はその分も）

お一人残らずお納め下さい（高校第九回卒業の方まで）

十年まとめてお納めの方は九〇〇円

お払込みには同封の振替用紙を御利用下さい

（卒業回数、クラス名をお忘れなくおかきこみ下さい）

ワカバ会講習案内

科目	曜日	時間	月謝
ピアノ	火・木	二時半より （何れか週に一回）	一、〇〇〇円
バイオリン	火	二時半より	一、〇〇〇円
琴（山田流）	火・土	二時半より	一、〇〇〇円
花（小原流）	月	二時半より	五〇〇円
洋裁	水	十時――四時	五〇〇円
入会金	五〇〇円		

会員の方は不要、会員のお子様は半額、講習会は会員外の方も結構です